

立命館經濟學

第二卷 第六号

昭和二十八年十二月

内 容

時 論

最近の中小企業立法……………井 上 巖 次 郎 (1)

論 說

会計学上に所謂發生主義と実現主義
に関する若干の考察……………津 ノ 国 長 四 郎 (12)

——發生主義と發生主義の会計について——

諸商品集成の感性的直観（その二）……………梯 明 秀 (28)

——併せて遊部、宇野、向坂の諸氏の所説について——

研 究

米国の綿花生産とその処理策……………森 川 信 (66)

内部索制組織の弱点について……………高 尾 忠 男 (81)

講 座

任意標本調査法(五)……………関 弥 三 郎 (90)

剰余価値説の成立過程(三)……………松 田 弘 三 (110)

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学

第二卷・第四号

論説

危機に立つ反独占政策

井上巖次郎

わが国労働関係の特質(一)

大山敷太郎

——そこにおける封建性の根強き残存——

ルネサンス・レフォルマチオン

期における所有観(上)

高橋良三

研究

利子生み資本の変容

小牧聖徳

——近代的銀行業の成立をめぐって——

「企業者」と資本主義過程の「革

新」について

浜崎正規

——シユムペーター学説の主要問題——

講座

任意標本調査法(四)

関弥三郎

発行所

立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第二卷・第五号

論説

諸商品集成の感性的直観(その一)

梯 明秀

——「資本論冒頭文節の体系的意味」の第三章として——

利潤と人民の生活との対抗関係

阿部 矢二

我国近世の経済思想(下)

淡川 康一

——大山教授の近著を中心として——

研究

ヒックスにおける代替補完概念

の吟味

山田 邦臣

——連関財に関する一考察(一)——

講座

剰余価値説の成立過程(一)

松田 弘三

発行所

立命館大学人文科学研究所